

学長・学校長メッセージ ～コロナ禍を全学一体で乗り越える～



今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で五月まで休業となり、ようやく通常授業が始まったのが六月でした。その間、生徒の

皆さんは自宅での課題学習やスタディサプリなどのオンラインによる学習、そして、やるべきことを自分で計画し取り組んでいくことが必要でした。私たち教職員も、家庭学習用の課題作成や、五月にはネットのアプリを使い生徒たちとのコミュニケーションを図りました。

五月後半の分散登校を経て六月一日から始まった通常授業は、密を避けることや教室の換気等に気を配りながら行いました。また、校友会や部活動においても多くの制約がある中での再開となりました。

四月以降のことを振り返ってみると、学校は生徒と教職員がともに活動をして

活気が溢れるのだということとを改めて認識した時間でもありました。これほどの長い期間にわたり学校に生徒がいなかったという経験はこれまでありませんでした。

通常なら土日や夏休みなどでも、課外授業や部活動で生徒たちは学校で元気な姿を見せてくれます。教職員も生徒に向かい授業や部活動指導をすることで活力をもらい、生徒の反応を見て次にどうするか考え、その繰り返しで工夫とやる気が出てきます。教材を作るだけでは「張り合い」というものが感じられません。やはり生徒と触れ合いながら、彼らが成長していく姿を目の当たりにすることが私たち教職員のエネルギー源であり、授業再開後の生徒とのやり取りや活動する様子を見るにつけて、そのことで私たちはやりがいを感じるのだと強く思った時間でした。

これからも私たち一人ひとりが細心の注意を払い感染防止に努め、学校活動に取り組みでいききたいと考えています。

九州、中部、東北地方をはじめ広範な地域において甚大な被害をもたらした令和二年七月豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

学校法人 皇 學 館

生徒の成長がやりがい

生徒の皆さんへ

高等学校・中学校 校長 木村 元茂



今、世界は新型コロナウイルスという未曾有の感染症に見舞われ、その感染拡大は社会生活に大きな影響を与えています。本学は学生の皆さんの安心、安全を

確保し、大学教育を提供し続けられるように、政府や県、また社会の動きを見据えながら、新型コロナウイルス対策に取り組んでいます。

今年度は入学式式典が中止となり、学科毎に教室に分かれて入学式が実施されました。春学期当初、オンライン化できる科目についてのみ遠隔授業で講義を行

い、五月二十五日からようやく段階を踏んで対面授業が開始されました。それ以降、春学期は対面授業とオンライン授業を併用し、授業日数確保のため夏季休暇期間も講義を行いました。

このような状況下で不安になった学生も多いと思います。新入生の皆さんはオンライン授業の連続に戸惑いを感じたのではないでし

ようか。授業時間割や教室の変更、学内外の諸手続きなど、学生の皆さんには例年はない対応をお願いしました。教室で教授陣から直接に学びたい、グラウンドや体育館で思い切りスポーツをしたいという気持ちがあったと思います。ここまで大学の方針に従い、窮屈な状況とともに耐えてくれたことに感謝しています。

卒業、就職をひかえる四年生に限らず、すべての学生の皆さんが科目等の履修に支障がないように、また進級や免許・資格取得などが順調にゆくように一人ひとりを支える体制を築いていますので、学業やあるいは生活面、経済面についても不安や問題があれば遠慮なく教職員に相談してください。

クラブ等の課外活動については、感染症への対策をとりながら、いつの日か存分に活躍できるように、常に向上心を持ち、技を磨き、心身を鍛えてください。

秋学期も対面授業とオンライン授業が併用されると思われます。先生方には授業の準備などここまで多大な負担をおかけしていますが、春学期の経験を活かし、

力を一つにする時

学生の皆さんへ

学長 河野 訓

とりを支える体制を築いていますので、学業やあるいは生活面、経済面についても不安や問題があれば遠慮なく教職員に相談してください。

クラブ等の課外活動については、感染症への対策をとりながら、いつの日か存分に活躍できるように、常に向上心を持ち、技を磨き、心身を鍛えてください。

秋学期も対面授業とオンライン授業が併用されると思われます。先生方には授業の準備などここまで多大な負担をおかけしていますが、春学期の経験を活かし、

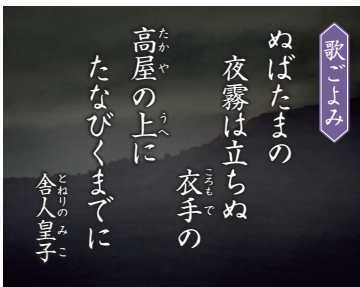
今年度は入学式式典が中止となり、学科毎に教室に分かれて入学式が実施されました。春学期当初、オンライン化できる科目についてのみ遠隔授業で講義を行

い、五月二十五日からようやく段階を踏んで対面授業が開始されました。それ以降、春学期は対面授業とオンライン授業を併用し、授業日数確保のため夏季休暇期間も講義を行いました。

このような状況下で不安になった学生も多いと思います。新入生の皆さんはオンライン授業の連続に戸惑いを感じたのではないでし

皇 學 館 学 園 報

第84号
令和2年9月



■注目記事

アカデミック 2面
『日本書紀』撰上1300年に寄せて
研究開発推進センター長 大島信生

アカデミック 3面
ポーランド・ワルシャワ大学と
学術連携協定を締結

4面
伴五十嗣郎元学長が逝去

特別企画 5面
ウィズコロナ時代の学び
総力挙げて学修支援

6面
WEB SOUBUNに写真部の
幸田悠さん、堀出萌絵さんが出品

7面
令和元年度 収支決算報告

8面
アクティブスチューデント
中原みゆうさん(現日3)が東京2020
オリ・パラのヤングレポーターにほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学
大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



コロナ収束を祈願

大祓式を斎行

6月1日からの本格的な対面授業再開にあたり、神職養成部による臨時の大祓式が5月29日、本学本部大会議室にて執り行われた。

当日は、河野訓学長をはじめ教職員約70名が参列。祓主に合わせ大祓詞を全員で奉唱し、本部前広場にて四方祓いの後、教職員に配布された人形に罪穢を移し、終了した。



倉田山
春秋

サナトリウムという単語を最初に目にしたのは高校生の頃に読んだ堀辰雄の小説だったかもしれない。それは女子学生の必読書だった▼「かういふ山のサナトリウムの生活などは、普通の人々がもう行き止まりだと信じてゐるところから始つてゐるやうな、特殊な人間性をおのづから帯びてくるものだ」▼『風立ちぬ』で描かれたサナトリウムは、絶望の「死のかげの谷」だったが、愛によって新しい生を予感させる結末を迎える▼アメリカの微生物学者ワックスマンによつてストレプトマイシンが見出されて以降、結核は治る病気になった。それまで、療養施設としてのサナトリウムは、隔離施設であるとともに、不治の病であつた結核のターミナル・ケア(終末期医療)の現場としてイメージされた▼慢性的にはあるが、確実に歩み寄つてくる死の影がそこにはあつた▼正岡子規、石川啄木、宮澤賢治、中原中也、そして堀辰雄ら。結核と自身が戦い、また、最愛の人を結核で亡くした経験が、作品に投影された▼新たな病とその死が、現代のストマイが完成することを祈りたい。

白山氏、上野氏、外山氏が
名誉教授に就任



授与式にて。前列左から外山氏、白山氏、上野氏(右端)

本学に長年勤務し、教育・学術両面において顕著な功績を上げ本学の発展に寄与したとして前特別教授の白山芳太郎氏、上野秀治氏、前教授の外山秀一氏に名誉教授の称号が贈られた。

白山氏は昭和25年、兵庫県生まれ。昭和52年3月に本学大学院文学研究科博士課程国史学専攻を単位取得満期退学するとともに本学文学部助手に任用。以来、43年にわたり本学に在職し、学生指導、神職養成の傍ら神道研究所所長、学長補佐など重責を担われた。また神道学、特に中世神道の研究に努められ、『北畠親房の研究』『神道学原論』『白山神社史』等多数の編著書をまとめるなど学界、神社界に多大な貢献をしてこられた。

上野氏は昭和24年、東京都生まれ。国史学科主任、史料編纂所所長など学内のみならず、母校である学習院大学の同大史料館客員研究員、日本古文書学会理事等を務め学外でもご活躍されてきた。また、旧姓は「松平」で旧華族ご出身である上野氏は華族制度史を研究テーマとしており、編纂にあたられた『平成新修 華族家系大成』は同分野における座右の書として高い評価を得ている。自治体史の編纂にも精力的に取り組まれ、指導学生の中からは若手研究者が次々と輩出している。

外山氏は昭和29年、宮崎県生まれ。平成4年に本学文学部講師に着任以降、助教授、教授に昇任され、コミュニケーション学科主任、附属図書館長を歴任。学外では国際日本文化研究センター共同研究員、歴史地理学会評議委員等を務められた。ご専門である地理学では論文が計125本を数えるなどその成果は授業や学界に役立てられた。幅広い知見に基づく熱心な教育実践はいうまでもなく、中学校社会科、高等学校地歴科教員をめざす学生に対する指導は特筆に値する。

令和元年度は
3件の受託研究を実施

受託研究とは学外諸団体等から研究・調査等の委託を受け研究を行い、その研究成果を委託先に報告するものである。

令和元年度は2町1民間企業から3件、総額およそ370万円の資金提供及び研究委託を受けた。地域のシンクタンクとしての機能を一層高め、産官学の連携強化や研究を通じた社会貢献を図っていく。

平成31年度(令和元年度)受託研究

- ◆下外城田地区
明るい未来づくりに関する調査研究業務
【研究担当者】池山 敦
【契約相手先】玉城町
【受託期間】平成31年4月25日～令和2年3月27日
- ◆体重減少(減量)および減量達成後の体重再増加(リバウンド)予防を含めた企業従業員のための健康づくり支援・健康教育プログラムの開発
【研究担当者】片山 靖 富
【契約相手先】日本特殊陶業(株)
【受託期間】令和元年6月10日～令和2年3月31日
- ◆南伊勢町地域連携
日本酒プロジェクトの調査研究
【研究担当者】千田 良 仁
【契約相手先】南伊勢町
【受託期間】平成31年4月20日～令和2年3月31日

本年は『日本書紀』撰上千三百年にあたる節目の年である。『日本書紀』の撰上については、『続日本紀』養老四年五月二十一日条に、
是より先、一品舍人親王、勅を奉けたまはりて日本紀を修む。是に至りて功成りて奏上ぐ。紀三十卷系図一卷なり。
とある。右の「日本紀」が『日本書紀』の異名である。舍人親王は天武天皇の皇子で、『日本書紀』の編纂にあたっては総裁格であつたと考えられている。
『日本書紀』は全三十巻で、神代から持統天皇の御代までが漢文体の文章で記されている。そのうち巻第一、巻第二を神代下とし、巻第三以下は編年体である。この『日本書紀』により我が国の歴史を初めから知ることがができる。即ち国家の起源、天皇の根源は神代に遡ると認識されていたのである。神代では正文(本文・本書・正伝とも)の他に一書と言われる別伝をも掲載しており、多くの伝承を知ることができる。



舍人親王撰『日本書紀』(皇學館大学附属図書館所蔵)

『日本書紀』の成立の翌年に早くも宮廷で講書(日本紀講筈)が行われており、平安時代にも六回行われている。その後も現代に至るまで読み継がれ、神道古典としても重要な位置を占めてきた。今でも様々な分野からの研究がなされている。
本学では、昭和四十五年五月二十一日に撰上千二百五十年祭が斎行されている。当時の高原美忠学長以下、教職員及び学生・生徒が参列し、長谷晴男教授を斎主とし、学園挙げて祭典が執り行われた。祭典後には平泉澄学事顧問の「経国の大業」と題する記念講演が行われた。なおこの講演は「皇學館大学講演叢書(第十七輯)」に収録されている。
本学では本年五月二十一日に千三百年の記念行事を予定していたが、コロナウィルス感染拡大防止の目的から延期となった。現在、本年中の開催を目指して協議しているところである。
この節目の年に多くの人々に『日本書紀』に触れていただきたい。

『日本書紀』撰上千三百年に寄せて

研究開発推進センター長 大島 信 生

『古事記』も日本の古代を知る貴重な資料であることは間違いない。ただ『古事記』が推古天皇朝で終わっているのに対し、『日本書紀』はさらに持統天皇の時代までを詳しく知ることができる。その後の歴史は『続日本紀』が受け継ぐことになる。

『日本書紀』の成立の翌年に早くも宮廷で講書(日本紀講筈)が行われており、平安時代にも六回行われている。その後も現代に至るまで読み継がれ、神道古典としても重要な位置を占めてきた。今でも様々な分野からの研究がなされている。

板東准教授が
講演『日本書紀』と『古事記』を開催

みえアカデミックセミナー2020



伊勢の学者、谷川士清と本居宣長の解釈をわかりやすく解説する板東准教授

七月十七日、三重県総合文化センターにおいてみえアカデミックセミナー2020が開催され、本学文学部神道学科の板東洋介准教授が『日本書紀』と『古事記』と題し講演を行った。

講演は『日本書紀』の全注釈書『日本書紀通証』を著した谷川士清(二七〇九〜一七七六)と『古事記』のほぼ初の注釈書である『古事記伝』を三十四年かけ完成させた本居宣長(一七三〇〜一八〇一)を軸に展開。

宣長が中国思想の影響の少ない『古事記』の方が日本の古えの真実のありようを伝えているとしたことで、『日本書紀』を重んじる風潮が一転、『古事記』により価値を置くようになったこと、また、ともに伊勢の学者、医師という共通点を持つ二人が書簡で忌憚なく討論を交わし、学術交流を深めていたことなどが語られた。後半ではイザナミの生死と

檀原神宮御鎮座百三十年記念事業

『神武天皇論』『檀原神宮史 続編』が完成

本学教員が平成二十八年に檀原神宮より編纂事業の委嘱を受けた『神武天皇論』(清水潔学事顧問監修)、『檀原神宮史 続編』(田浦雅徳特命教授監修)が発刊の運びとなり、五月二十九日、佐川記念神道博物館において披露された。

令和二年は第一代の天皇である神武天皇をお祀りする檀原神宮御鎮座百三十年にあたる。その記念事業としておよそ三年半にわたり着々と進められてきた同編纂事業。編纂委員の解任式を執り行った檀原神宮の久保田昌孝宮司はご挨拶の中で刊行の喜びとともに、多くの方から時宜にかなった出版との称賛の声が寄せられていることに触れ、委員たちを労われた。

『神武天皇論』では、古代より、中世、近世、近代の各時代の「神武天皇観」を考察。神武創業への回帰に至る道を描く。『檀原神宮史 続編』は『檀原神宮史』(三巻)に続くもので、昭和十八年から令和二年



神武天皇論
A5判 412頁
定価3,740円
(本体価格3,400円)



檀原神宮史 続編
A5判 236頁
定価3,300円
(本体価格3,000円)

に至る七十七年の歩みを記す。戦後、国家管理を離れた神宮が如何にして復興したか、その苦闘の歴史を叙述した。二点とも国書刊行会にて市販。

スサノヲ像について両者の解釈を紐解きながら、「記紀は別別の世界観とストーリーを語っている」と話した。記紀の微妙な文言の違いにこだわることで人間の生き方や昔の人が大事にしていたこと、それらを現代にどう生かせるのか皆さんと共有できたらと問いかけ、講演を締めくくった。なお、新型コロナウイルスの感染防止対策のため質疑応答はなかったものの、板東准教授の熱のこもった語りにならずきながら聞き入る聴衆の姿が見られ、有意義な時間となつたようだ。

三者が選挙啓発に関する連携協定を締結



7月20日、伊勢市役所にて協定締結式が行われた。左から竜田節夫伊勢市選管委員長、河野訓学長、富永健三重県選管委員

近年の選挙において若年層の投票率の低下が懸念されている。世代別の投票率をみると、令和元年参院選で最も投票率が低かったのは20～24歳の28.21%。18・19歳は選挙権年齢が引き下げられた最初の選挙(平成28年)以降、投票率は下落傾向が続く。そこで、大学生及び若者世代に対し効果的な選挙啓発に取り組もうと、本学、伊勢市選挙管理委員会、三重県選挙管理委員会は連携協力に関する協定を締結した。具体的な取組みとして立ち上げたCLL活動「若者の投票率UP! プロジェクト」には玉城町選挙管理委員会も加わり、①CM制作やイベント実施など選挙啓発活動の企画・運営、②投票率の低さの原因究明、③投票率向上のための提案書の作成を計画している。河野訓学長は「投票率の低下は政治への関心の低さを如実に示している。選挙への投票行動に結びつくよう啓発指導していく」と話す。

のべ1140名が来場 WEBオープンキャンパスも開設 令和2年度オープンキャンパス

毎年恒例のオープンキャンパスが「Hello! New Me」をテーマに開催された。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、事前予約制(定員制限あり)、受験生(6月は三重県のみ)及び付添者に限り参加を受け付け、AO対策講義・模擬講義・入試説明会・個別相談会、施設散策を実施し、のべ1140名(生徒792名、付添者348名)にご参加いただいた。



模擬講義では心理学的観点から、音楽の聴き方をためして心の変化を感じる「音楽の聴き方と心理学」(コミュニケーション学科)や子どもたちの学習特性を知り、学びを伸ばす方法を考える「学びを科学する一個に応じた学びの支援とICT機器等の活用一」(教育学科)といった様々な専門性の高い講義が行われた。さらに今年度からのコンテンツとして、本学受験生サイトにてWEBオープンキャンパスを実施し、入試説明など動画形式で更新を行い、好評をいただいている。こちらも是非ご覧いただきたい。

三重ジュニアドクター育成塾を開講

小・中学生を対象とした「三重ジュニアドクター育成塾」。3年目となる今年は6名が本学で受講。新型コロナウイルス感染症対策のもと、8月には中松豊教授による講座が開催された。この時期にタイムリーな「昆虫の体と免疫のしくみ」をテーマに、受講生たちは蛾の幼虫アワヨトウを解剖してスケッチしたり、血球が墨粒を食べる様子を顕微鏡で観察。解剖した昆虫の体内からヒトと共通する点や相違点を見つけ、中松先生や学生メンターに積極的に質問をするなど熱心な態度で取り組んでいた。なお、来年3月までに観察・実験講座を7回、探求活動講座を2回、プレゼンテーション講座を3回行う予定。

ポーランド・ワルシャワ大学と、本学はこの度、ポーランドの国立ワルシャワ大学と、日本研究をめざす大学院生の受け入れを主たる目的として、学術連携協定を締結した。

昨年五月新田均現代日本社会学部長がワルシャワ大学東洋学部日本学科を訪問して、留学生の受け入れを打診。次いで昨秋、同大学での国際学会に参加した田浦雅徳特命教授が、大筋を取りまとめ、今回の協定の締結となった。

ポーランドはヨーロッパ随一の親日国であり、ワルシャワ大学日本学科もまた、熱心な日本研究の拠点として有名である。本協定によって、同学科の大学院生が毎年二人(期間は各半年)、本学で神道や日本の文化・歴史に触れつつ、さらに研究を進めてもらうというものである。

五月十八日、ワルシャワ大学パウイス学長と河野訓学長の署名済みの協定書が披露された。主な協定の内容は以下

- ① 共同研究事業
- ② 教職員の交流
- ③ 大学院生を含む学生の交換
- ④ 共同研究活動
- ⑤ セミナーや学会への参加
- ⑥ 学術資料や他の情報の交換
- ⑦ 共同文化プログラム



佐藤准教授

協定は本年四月一日発効だが、新型コロナウイルスの影響で遅れ、具体的開始は来年四月の予定である。この事業は篠田学術振興基金によって運用され、今後の両大学間交流の発展が大いに期待される。



長谷川助教

長谷川助教は近代日本の方向性に影響を与えた満洲問題と日本の満洲経営について考察する授業で当時の絵葉書や風刺画、

学生が主体的に学ぶ能動的学習(アクティブ・ラーニング)等を実践したとして高く評価されたのは教育学科・佐藤武尊准教授による「武道Ⅰ・Ⅱ《柔道》」と国史学科・長谷川怜助教による「国史学特講DⅡ」。

佐藤准教授による柔道の実技授業は学生の授業評価アンケートにおいて常に極めて高い評価を得ており、一度も重大事故が起きていない。平成三十年度は音楽にあわせて柔道の技術・演武を披露する「リズム柔道」を取り入れ、iPadやスマートフォンで撮影した映像を使って指導するなど新たな学びの手法を開

発。佐藤准教授は「好きな音楽を編集して楽しくリズム柔道に取り組むなど彼らの得意分野を生かすことで自ずと主体性につながる」と話す。今年度佐藤准教授の授業を受講した高山結衣さん(教育2)は「先生の具体的な丁寧な解説を通して礼の角度や左座右起といったすべての所作に意味があることを知り、他の勉強でも根本を調べるようになった。試合においても相手を思いやり、尊重した上での技の掛け合いであることを学んだ。教員になった際は先生に教えていただいたように、融和協調の精神を尊ぶ日本文化としての柔道を伝えたい」と語った。

長谷川助教は近代日本の方向性に影響を与えた満洲問題と日本の満洲経営について考察する授業で当時の絵葉書や風刺画、

レコードといった実物資料を多用。学生が間近で見られるよう図書館内で展示し、講義内容と連携させて満洲と日本の関わりを追体験できるよう工夫した。

満洲観光パンフレットが印象に残ったという直江駿介さん(国史4)は「実物を見たことで時代の雰囲気や映像が頭に浮かび理解が深まった。満洲を旅する人人に何を見せたかったかなど史料を読み解く力も身に付き、日本側・中国側・他国からと様々な視点から立体的に学ぶことができた。図書館に行く機会も増え、必要な史料を自分で調べられるようになった」と話した。



協定書を手にする河野学長と田浦特命教授(左)、新田現代日本社会学部長(右)

ポーランド・ワルシャワ大学と学術連携協定を締結

佐藤准教授、長谷川助教の教育実践を顕彰

本学では中期行動計画における重点事業「大学教育の「学び」の質保証・学修者本位の教育の転換」の一環として、優れた教育実践に対し顕彰を行っている。六月十七日、教授会にて令和元年度までの実績に基づき教育学科・佐藤武尊准教授、国史学科・長谷川怜助教が表彰された。



図書館のミニ展示コーナー

令和2年度科研費に3研究が採択

令和2年度 科研費新規採択課題一覧(令和元年度申請)			※課題番号順に掲載
研究課題名 研究期間	研究種目	研究代表者	
1 中国近世期における 道教内丹道の書誌学的研究 (課題番号: 20K00063)	基盤研究(C)	文学部教授 松下道信	
【開始】令和2年度～【終了予定】令和4年度			
2 小学2年から4年での 図形の属性・形・性質理解をはかる プログラミング活用研究 (課題番号: 20K02927)	基盤研究(C)	教育学部教授 杉野裕子	
【開始】令和2年度～【終了予定】令和4年度			
3 田山花袋の平面描写論を中心とする ジャンル・流派横断的文学理論研究 (課題番号: 20K12932)	若手研究	文学部准教授 小堀洋平	
【開始】令和2年度～【終了予定】令和4年度			

文部科学省が所管する科学研究費助成事業(通称「科研費」)に、今年度、本学からは3研究が採択された。

新規の採択率が三割を切る国内最大規模の競争的資金制度である「科研費」は研究者自らの自由な発想に基づく研究の推進を目的としており、人文社会科学から自然科学までのすべての分野におけるあらゆる学術研究が対象。税金を財源とするためピア・レビュー方式(専門分野の近い複数の研究者による審査)によって厳しく、かつ高い透明性をもって評価される。採択された研究課題と代表者は左表の通り。

伴五十嗣郎元学長を偲んで

学長 河野 訓

二月二十七日に逝去された亡き伴五十嗣郎元学長享年七十七歳の御霊に、謹んで哀悼の辞を申し上げます。

伴先生は、昭和四十四年に本学の大学院国史学専攻の修士課程を修了され、福井市立郷土歴史博物館にご勤務の後、昭和五十九年に本学に戻られ、教鞭をとられました。文学部長等の重職を歴任され、平成十五年四月、再興後の卒業生として初めて学長に就任されました。平成二十三年三月までの在職中には名張学舎の統合や本学北キャンパスの整備などを実現し、名実ともに本学の発展に大きく貢献されました。在任中の数々のお働きと創立百三十周年・再興五十年記念事業に向けてのご尽力、また本学のみならず日本の神道学研究を牽引してこられた神道学者としてのご業績に心より敬意を表します。伴先生の神道学諸分野に及ぶ広汎な学識とそ

の研究方法及び研究姿勢は神道学を目指す学究の範でありました。温顔に安心を覚える一方、物事にも、人に対しても厳然とした態度をとられ、神道学科の学生、殊に自らの後継者となる大学院神道学専攻の院生に対する指導には厳しいものがありました。

先生は事あるごとに本学が根幹に据えるべきこととして「建学の精神」と「全学一体」を挙げられました。大学の個性化や国際化、また学生たちのニーズに合わせた大学の改革を強調されました。ご指針の多くは清水潔前学長の時代に大きく推進され、成果を挙げました。

今後も気を緩めず、先生が常日頃から口にされていた「正直」の精神を忘れることなく、皇學館大学の今一層の充実と発展に尽くしたく、伴先生の御功労に心からの感謝を捧げ、哀悼の意を表したいと思います。



伴 五十嗣郎 元学長 略歴

- 昭和42年3月 皇学館大学文学部国史学科卒業
- 昭和44年3月 皇学館大学大学院文学研究科修士課程国史学専攻修了(文学修士)
- 昭和44年4月 福井市立郷土歴史博物館主事補(学芸員)
- 昭和53年10月 福井市立郷土歴史博物館主査
- 昭和59年5月 皇学館大学神道研究所専任所員助教授
- 昭和62年4月 皇学館大学文学部助教授
- 平成元年4月 皇学館大学文学部教授
- 平成2年4月 皇学館大学大学院文学研究科教授
- 平成3年4月 学校法人皇学館大学評議員
- 平成4年7月 神社本庁参与
- 平成8年6月 神道史学会代表(平成23年5月迄)
- 平成9年4月 皇学館大学神道博物館館長(平成13年3月迄)
- 平成13年4月 皇學館大学文学部部長就任(平成15年3月迄)
- 学校法人皇學館理事就任
- 平成15年4月 皇學館大学学長就任(平成23年3月迄)
- 平成23年4月 皇學館大学名誉教授

森下千瑞名誉教授が逝去

本学名誉教授で伊勢市教育委員長等を務めた森下千瑞氏が5月16日に帰幽(享年90歳)された。葬儀は近親者で執り行われた。ここに心より哀悼の意を表しますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

コロナ禍、首都圏の三重出身学生を支援

7月11日、12日の両日、東京都日本橋にある県のアンテナショップ「三重テラス」で三重県



にゆかりのある学生や若者を対象に食料品などを無料で配布するイベントが開かれた。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で困窮する学生たちを支援しようと、田中南帆さん(神道4)や中国人留学生の車冉さん(現日3)らが中心となり「まごころお届け三重」プロジェクトを企画。現代日本社会学部の新田均教授と伊勢市の海藻加工販売業「北村物産」の協力を得て、菓子や調味料、マスクなど県内企業45社から支援物資5199個の提供を受けた。鈴木英敬三重県知事も協力を快諾。三重テラスへは175名が来場した。

スマホ・ケータイ安全教室を 皇學館中学校

令和2年6月16日(火)7限目に全学年を対象にスマホ・ケータイ安全教室を実施した。生徒



はGoogle Meetで各教室に配信された動画や教員の説明を、自分に置き換えながら視聴した。

動画内容は、①友人とのSNSでのやりとり ②ゲーム・ネット依存 ③動画・写真の投稿。SNSでは文字で伝えることの難しさ、ゲーム依存では誰にでも起こる可能性があることを知り、また動画・写真の投稿については誰でも見ることができることから、個人情報が出し、被害にあうことがあることも再確認した。最後は、スマホはとても便利だが、間違った使い方をすると非常に危険であること、未来をしっかり想像してから画面をタップすることが大切であることを学んだ。

バーチャル・ミュージアム「おうちで神道博物館」配信

佐川記念神道博物館

佐川記念神道博物館では新企画として、当館の収蔵資料等をネット上で観覧することができ、バーチャル・ミュージアム「おうちで神道博物館」の配信を、七月二日より公式ホームページ内で開始した。



実際に塗り絵やクイズに取り組む様子

新型コロナウイルス感染症の影響により、大学内の各施設では令和二年度に開催を予定していた催し物がほぼ中止となり、当館においては感染症予防のため、九月現在においても臨時休館が続いている。このような状況をふまえ、当館では、利用者が自宅にいながらも博物館施設を楽しむことができる方法を模索し、当企画の発案に至った。

「おうちで神道博物館」は「大人も子どもも、おうちで楽しく学べるコンテンツを発信する」ことを目的としており、当企画を通じて館蔵資料がもつ魅力をも多くの人々に伝えていくことを目指す。また当館は、北海道博物館が開始した「おうちミュージアム」(自宅学習のアイデアを発

信する施設同士を繋ぐプログラムにも参画しており、所蔵資料に関連する情報を県内外問わず発信するよう努めている。

配信する内容は、館蔵資料を写真付きでわかりやすく紹介する「まなび」と、館蔵資料を利用した塗り絵・パズル等を提供する「あそび」の二項目に分かれ、幅広い年代層が楽しめる仕様となっている。現在、伊勢歌舞伎や皇室関係資料を中心としたコンテンツを掲載しており、今後さらに増やしていく予定である。ぜひご覧いただきたい。

強化指定クラブ活動報告

駅伝競走部

東海代表選考会に向けて

本年は新型コロナウイルスの感染拡大により、大学生活、競技活動共に、例年とは異なる春シーズンを送りました。4月9日より部活動も禁止になり、約1カ月半を自主練習で過ごしましたが、6月1日に対面授業が開始になると再び正式に部活動も再開。今、部員たちは元気に過ごしています。

7月より日本の陸上界も競技会が各地で再開されたものの、様々な規制もあって、思うように大会には出られておりませんが、おおむね順調に練習を経過しています。10月に出場予定だった出雲駅伝の中止は残念ですが、全日本大学駅伝は開催前提に、東海代表選考会も9月22日に開催されます。メンバーも「まずは予選1位を目指して、みんなで助け合い、競い合いながらチームを高めていきたい」(平山寛人主将・教育4)と前向きに取り組んでいます。

自主練習期間中、寮の清掃整頓、グラウンド整備や草抜き、そして学内清掃のお手伝い等も行いながら、心身共に健康維持に努めてきた駅伝競走部に、今後のご指導ご鞭撻、そしてご支援の程、よろしく願い致します。

監督 日比勝俊

柔道部

清掃を通しチーム・リビルディング

私たち柔道部は活動を行うとき、個人ではなく、皇學館大学柔道部というチーム、組織の一員としての自負を持って取り組んでいます。その意識が新型コロナウイルスの影響で部活動の休止を余儀なくされる中、薄れてしまう懸念がありました。そこで、これまでも台風の後などに定期的に行っていた清掃活動を6月1日の対面授業再開後に実施。一つの目的を達成するために全員がそれぞれの役割、責任をきっちり果たすという感覚を取り戻し、チーム像を再確認する機会になったと思います。学生たちも久しぶりに仲間に来て非常に嬉しそうでした。

今回、大会が中止になるなど練習の成果を発揮できないもどかしさ、悔しさはあったでしょう。だからといってコロナ禍を一生の傷として捉えてほしくはありません。むしろ糧にして、平穩な日常のありがたさに思いを馳せ、自分に今できること、とるべき行動は何なのか、常に前向きに成長できるチームでありたいと考えています。

部長 佐藤武尊

新任教職員紹介

- ①出身地・経歴等
- ②趣味・特技等
- ③座右の銘
- ④一言メッセージ

皇學館大学

財務部会計担当

角谷 千尋



①三重県 ◆ 皇學館大学教育学科卒

②旅行、ミュージカル鑑賞 ③継続は運 ④母校に戻ってくることができて嬉しいです。恩返しができるよう、精一杯頑張ります。

学生支援部就職アドバイザー

大陽 智子



①三重県 ②ハーバリウム制作 ③一期一会 ④これまでの経験を活かし、誠実に学生の皆さんの支援に努めます。

特別企画

ウィズコロナ時代の学び 総力挙げて学修支援

新型コロナウイルスに関わる休業要請の解除を受け、本学園では五月二十五日から対面授業を再開した。休校中は大高中いづれも早々にオンライン授業を実施するなど日頃の教育力が発揮された形だ。ウィズコロナ時代において学びの質をいかに保証し、環境を整えていくか、現場では様々な取組みが展開されている。

皇學館大学

GWまでに六割超の科目でオンライン授業

四月七日。皇學館大学では、一年生を対象として日程を大幅に縮小した修学指導の最終日を迎えた。対面授業は困難であることから、オンライン授業での開講を準備する中で、LMS(学習管理システム)であるmanaba course(以下manaba)について説明の機会が得られたのは幸いだったと思う。また教員に対しては、四月十日の開講に向けて、教育開発センター主催の「遠隔授業コンテンツ作成研修会」を開き、リアルタイム用テレビ会議システムの使い方とオンデマンド用教材作成の説明及び意見交換を行った。この段階では説明者も含め、全ての教員が予測不可能な未知の課題に直面していたといえる。

教育開発センターとしては、まず、専任教員でオンライン授

業を実施し、その中で生じた問題点の抽出と対処方法、それに基づく一定の方針を立てた上での全学実施をめざした。オンライン授業は、テレビ会議システムによるほうが組み立てやすいが、学生の情報通信環境に配慮して、オンデマンド型(随時視聴)とすることにした。

開講日当日、十科目程度を見込んでいたが、予想に反して三十六科目がスタートし、五月の連休までに春学期全体の六〇・二%にあたる科目の開講に漕ぎつけられた。本学の教育力が発揮された結果といえよう。

その後、連休明けから、非常勤講師の先生方も含め、可能な限りオンライン授業の実施をお願いした。システムの利用説明会も開催して円滑な導入に努めた。受講環境を整えるため、学

内のパソコン教室を開放。試行期間があつたため、教育開発センターへ日に百件近く寄せられる質問・要望にも回答できた。五月二十五日に一部の対面授業が開始されてもお断りは許

非接触での就職支援体制を整える

就職支援については神職養成部、教職支援担当、就職担当いずれの部署でも電話やメール、Webといった非接触でのサポート体制を整えた。

〈神職養成部〉では求人票を紙

さない状況にある。引き続き、教務担当を初めとする事務局とも連携して皇學館大学の総合力でウィズコロナ時代の学修支援に取り組んでいきたいと考えている。

manabaにオンデマンド型の教材を掲載し、授業資料を自宅に送付。個人・集団面接練習はGoogle Meetで実施し(五月末まで)、教採対策講座などは収録し、MediaDEPOやYouTubeを使って配信した。〈就職担当〉では個別相談は電話、Google Meet、メールで対応。ガイダンスや講座はmanabaで資料配布、動画配信を行った。また、ウェブでのやり取りが得意な学生、苦手な学生と二極化したため、本人の希望に応じ安全対策を徹底した上での対面サポートを実施した。

学生の声

学びが深まったオンデマンド型 寺本早希さん(教育1)

オンライン授業については入学直後の修学指導でmanabaの操作法や受講方法の説明を受けており、難しさはなかった。わからないことがあったとき、周りに気軽に相談できる状況ではないため不安に感じていたが、manabaのコメント欄を使って先生に質問するなど双方向でやり取りできた点もよかった。また、オンデマンド型は再度見直すことができ、学びを深められた。自分には合っていたと思う。対面授業が再開され、友人に直接会えたことで不安が減った。新しい生活様式での過ごし方にも慣れてきたので、徐々にコミュニケーションをとっていきたい。

対面式と遜色ないWeb面談 松岡奈々夏さん(教育4)

対面での面談(相談)ができない期間、Web上で対応してもらえた点は、まったくゼロの大学もあったと友人から聞いたのでよかったと思う。受けた感想も、対面と変わらないように感じた。manabaの教育実習事前指導は内容もきめ細かく丁寧で助かった。気になることをすぐに質問できず困ったが、教職支援担当に電話したり、友人に聞くといった方法で解決することができた。秋学期以降、いつオンライン授業になったのも対応できるようなWi-Fi環境を整えた。対面授業が再開されたことで友人と会えるようになって嬉しい。ソーシャルディスタンス等を意識して、適切に行動していきたい。

皇學館高校

スタディサプリの導入が奏功

皇學館高校では臨時休業期間中、五月上旬には「スタディサプリ」を学校導入し、生徒の学習支援に努めることができた。週平均の視聴時間は学年で差があるものの概ね三〇五時間程度で推移しており、「スタディサプリ」が自宅での自主学習に大きく貢献したことが見てとれる。また、Google Meetを利用してホームルームの開講や生徒の生活支援、教員との連絡をオンラインで行った。

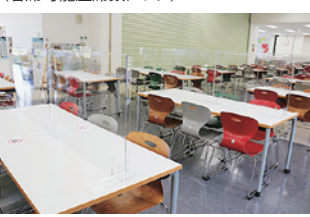
本校ではオンラインに関する検討会議を今後も継続的に開催し、学びの環境をいかに充実させていくかの議論を重ねていく予定である。

皇學館中学校

新たな学習スタイルを実施

皇學館中学校では休業期間中、Google Classroomを使った朝礼やオンライン授業、ライブ授業など教員と生徒が毎日必ず顔を合わせる体制を整え、スムーズにやり取りしていた。背景にはコロナ禍以前からICT機器の活用が教育活動の中心にあり、生徒が機器操作に慣れていたこと、教員が授業コンテンツ制作に長けていたことなどが挙げられる。保護者からも公立中や他の私立中との比較の上で感謝の意を伝えていた。多くの場合が多く、家庭内の環境整備に積極的に協力いただいたことに感謝したい。

対面授業再開後は、ペア学習・グループ学習を実施する際、感染防止のため机を向かい合わせにせず、間隔をあげ横向きで意見交換するなど学習環境を見直したり、「スタディサプリ」を継続して利用したりと、新たな学習スタイルを実施している。現在は家庭学習課題の配布や回収、取組み状況、提出状況の把握などオンラインでできることを模索しており、今後もより充実した学びに向けあらゆる方策を検討していく。

対 応 日	新型コロナウイルスへの主な対応(大学)
3/1~31 4/24~5/10	附属図書館休館(他の期間は開館時間を短縮、休館期間はゼミ教員を通して図書貸し出しを実施)
3/18	卒業式の規模縮小
3/27~4/7	在学生の履修指導を縮小、学科別に実施
4/3	入学式の規模縮小
4/4~7	新入生履修・修学指導を学科別に実施
4/6	学生食堂の座席数制限
4/7	専任教員向け遠隔授業コンテンツ作成研修会
4/10~	春学期オンライン授業開始(一部科目)
4/10~5/29	学生相談室 電話、メールで対応
5/7~14	オンライン授業閲覧状況調査
5/7	河南大学より、マスク500枚寄贈される
5/11~	対面での窓口相談・大学院演習室の使用解禁
5/11~	学生に対するマスク販売
5/11~16	全教員向けオンライン授業実施研修会
5/11~6/28	manaba学生の健康状況把握(6/28以降は自己管理)
5/14	学生金庫(無利子貸付)の上限額を20万円まで引き上げ、返済期日を延長。郵送や口座振替で対応
5/18~	県内学生の就職・教職・神職・英語アドバイザーとの対面個別相談再開。県外学生はオンライン対応
5/25~	初年次ゼミ、3・4年ゼミ、大学院科目の対面授業開始。特定警戒都道府県からの通学生はオンライン参加 教室の定員制限(収容定員の半分以上)
5/25~	教職・就職 対面指導開始
5/25~6/6	体温を測ろうキャンペーン(検温所設置) 
6/1~	受講者100名までの授業の対面授業開始。その他の授業はオンラインを継続
6/1~	「新しい生活様式」の実践が可能な部・同好会の課外活動を許可制で解禁(トレーニングルームは使用不可)
6/1~20	対面授業3週連続欠席状況調査
6/18	学生食堂等に飛沫防止パネル設置(着席可能座席数アップ) 
7/13~22	再流行に備えマスク着用・手指消毒指導
7/28~	モバイルWi-Fiルーターの貸出
8/5	教室棟への非接触無人体温計設置



オンラインでのライブ授業
(授業者側からの風景)

令和3年度生

皇學館高等学校・中学校募集要項

出願が始まります

詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。

皇學館高等学校

募集定員	315名
募集コース	進学コース・特別進学コース
願書受付	令和3年1月8日(金)～13日(水) 9:00～15:00(土・日および祝日は除く)
試験日	令和3年1月29日(金) 9:00～
教科	国語・数学・英語・理科・社会

オープンスクールのご案内

下記日程以外の見学も可能です。
詳しくはお問合せください。

第2回オープンスクール

「入試問題を知ろう!」

10月10日(土) 午前の部 10:00～13:00

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、
学食体験、入試過去問題解説(英語・数学・国語) など

第3回オープンスクール

「クラブ活動を知ろう!」

11月15日(日) 午前の部 10:00～13:00
午後の部 13:30～15:30

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、
学食体験、生徒によるクラブ紹介 など

※筆記用具、スリッパをお持ちください。参加者の皆さんには学
生食堂での昼食を準備しています。校舎見学後のクラブ活動
の見学も承っています。保護者の方々もご参加いただけます。

問合せ先

皇學館高等学校 TEL 0596-22-0205

皇學館中学校

募集人数 A日程(一般・専願)・B日程併せて 35名

A日程

出願期間	令和2年 令和3年 12月7日(月)～1月7日(木) 9:00～15:00(土曜日は正午まで) ※12月12日(土)・13日(日)・20日(日)、 12月26日(土)～1月5日(火)を除く
試験日時	令和3年1月9日(土) 8:50～
試験教科	一般 国語・算数・社会・理科・英語 ※国・算必須。社・理・英から2科選択し、得 点の高い1科採用。 専願 国語・算数 ※英語外部試験の有資格者に加算

B日程

出願期間	令和3年1月12日(火)～22日(金) 9:00～15:00 ※1月16日(土)・17日(日)を除く
試験日時	令和3年1月23日(土) 8:50～
試験教科	国語・算数

オープンスクールのご案内

第2回オープンスクール

～皇學館で学ぼう～

11月8日(日) 9:30～

学校説明・入試説明・入学試験対策授業

※HPにて申込が必要になります。約1カ月前から受付開始予
定です。

問合せ先

皇學館中学校 TEL 0596-23-1398(代)

ウェブ そうぶん

WEB SOUBUNに写真部の幸田悠さん、堀出萌絵さんが出品

第44回 全国高等学校総合文化祭「2020こうち総文」

新型コロナウイルスの影響により第44回全
国高等学校総合文化祭高知大会は大会史
上初となるインターネットを活用した「WEB
SOUBUN」(7/31～10/31)として開催され、本校
写真部3年生の幸田悠さん、堀出萌絵さんが三
重県代表として出品した。

「広げよう、魅せよう、繋げよう」との今大会
の基本方針のもと、参加者はウェブ上で発表さ
れた作品を鑑賞し、感想を書き込んだカードを
送信。一堂に会しての対面に代わり、新たな形
での出品者同士の交流を楽しんだ。幸田さんは
「全国から集まった素晴らしい作品に感動しま
した。鑑賞カードを作成する上で作品を一点一
点じっくり見るようになり、新しい発見もあり
ました」と話し、堀出さんは「現地会場と違い、
今年のような形も自分のペースで鑑賞できるの
で違った面白さがありました」と語った。



幸田さん出品作品
「妹」



堀出さん出品作品
「一人暮らし」

クラブ公式戦結果

陸上競技部

第83回 三重県陸上競技選手権大会

男子4×400mR	第1位	野呂仁人	中東大輔	家田惇基	大川祥太	3分18秒37
男子4×100mR	第1位	中西一冴	中東大輔	山田真大	野呂仁人	41秒19

2020全国高等学校リモート陸上競技選手権大会*(8月10日時点)

男子100m	16位	中東大輔	10秒62	男子棒高跳	24位	大西健介	4m30
男子200m	13位	中東大輔	21秒49		11位	辻井和音	3m20
男子400m	12位	野呂仁人	48秒45	女子棒高跳	11位	高山華梨	3m20
男子110mH	16位	山田真大	14秒84		17位	白井滯奈	3m10

*全国の高校生アスリートへの活動モチベーション維持等のため新たな競技会の形として開催され
る大会。各都道府県が指定する競技会への参加者全員が本大会に出場したことし、競技結果
からワールドアスレティックスのリザルトスコアを用いた全国のポイントランキングをつける。

弓道部

三重県高等学校体育大会弓道競技

女子個人の部 第4位 北山朝子

写真部

三重県高校写真連盟

第40回 夏季写真コンテスト

入選	2位	幸田 悠*
	6位	多賀成美

*幸田さんの作品は11月14日～15日に開催される
第40回近畿高等学校総合文化祭奈良大会に
三重県代表作品として出展される。

伊勢度会中学校夏季交流大会を開催

毎年開催されている、いわゆる中体連の大会はコロナウイルスの影響
により中止となった。しかし、3年生のこれまでの練習の成果を見
せるため、伊勢地区・度会地区の先生方の協力により、代替案となる伊勢
度会中学校夏季交流大会が7月25日・26日と8月1日・2日に実施された。
本校の生徒も一時はできないと思われた試合が開催される喜びを噛みしめ、
休校が明けてから一生懸命に練習に取り組み、大会に臨むことができた。コ
ロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客での開催となり、応援も声を
出さずに拍手のみという異例の試合運営となったが、それでも生徒たちの
熱意がそがれることはなく、一つひとつのプレーに全力を出し、日頃の練
習の成果を発揮していた。3年生にとっては中学校生活最後の大会を無事
に終えることができ、一つの区切りをつけることができた。



熱戦が繰り広げられたバスケット
ボール(上)とバドミントン(下)

皇中祭でSDGsに向けた取組みを発表

今年度の皇中祭テーマが
「夢の景色へ走り出せ!～
無限の力を結んで～」に決まっ
た。校友会本部役員を中心に、こ
のテーマに向かって皇學館中学
校全体で何ができるのか考えた
結果、SDGsについて全校で取
り組むことになった。

貧困、紛争、気候変動、資源の



発表準備をする校友会メンバー

枯渇、そしてコロナウイルスを
始めとする病気の流行一私たち
の世界は今、これまでになかつ
たような多くの課題や危機に直
面している。そこで世界中の様
様な立場の人が話し合い、2030
年までに達成すべき17の目標を
立てた。それがSDGs、持続可能
な開発目標(Sustainable develop
ment Goals)である。

この持続可能な世界を築くた
めに今、自分は何をすれば良い
のか、これらを考え、そして実
行することが、10年後、まさに世
界で活躍する自分たちに課せら

れた義務であるという強い自覚
のもと、現在各学級で鋭意学習
が進められている。今年度の学
習の成果は動画としてまとめら
れ、皇中祭で「私たちの2030年」
として発表される予定である。

SDGsの正確な理解とともに、
様々な学校や企業、団体等でど
のような取組みがなされている
のかを知り、そして誰もが安心
して暮らせる世界を創るために
皇學館中学生として今何に取り
組むべきか、一人ひとりに真剣
に取り組んでもらいたい。

校友会 橋本真人

平成26年9月1日～令和2年3月31日

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

快挙！**中原みゆう**^(現日3)さんが
東京2020オリ・パラのヤングレポーターに

東京2020オリンピック・パラリンピック大会を通じて将来スポーツジャーナリスト等をめざす学生を育成・支援しようと、国際オリンピック委員会のオリンピックインフォメーションサービス(OIS)チームがヤングレポーター20名を募集。この狭き門を中原みゆうさん(現日3)が見事突破し、学生記者に選ばれた。



皇學館大学生テレビ局に所属し、映像制作の実績を積んできた中原さん。「入学前から国際交流に関心があり、大学生テレビ局で磨いた力を生かせると思ったから」と応募動機を語る。選考過程で参加したOISのワークショップではプロからインタビューの極意を学び、また、プレッシャーを楽しめるようになるなど有意義な時間となったようだ。「人のいいところを発見し、それを伝えることが好き。取材する選手の活躍や行動をよく見て、相手に安心感を与えられるインタビューをしたい」と中原さん。「卒業して、社会に出てからも相手の長所を引き出すコミュニケーションをとっていきたい」と意欲的に語った。

コロナに負けないアイデア満載！
CLL活動「**広報いせ特集記事制作プロジェクト**」

若者に興味を持ってもらう行政広報紙をめざし、学生と伊勢市が連携し取り組んでいるCLL活動「広報いせ特集記事制作プロジェクト」。令和2(2020)年8月1日号は「こどももおとなもおうちでたのしむなっじかん」、同9月1日号では「伊勢えがおプロジェクト 広げよう! 笑顔の輪」と題した特集を組み、コロナストレスを吹き飛ばすアイデア満載の紙面となった。

8月1日号に携わった斎藤朋加さん(コミ4)は「家にいる時間が長いので、料理や塗り絵など親子で気軽に取り組めるコンテンツを盛り込んだ」と話す。学習帳のような表紙にハンバーグやアイスキャンデーのレシピ、伊勢市の観光PRキャラクター・はなてらすちゃんイラスト挿入といった子どもを意識した工夫も随所に。外出自粛要請のため集まることができず計画が煮詰まることも多々あったそうだが、オンラインミーティングで乗り切り、みんなで案を練り上げることができたと語る斎藤さん。「自分の考えを磨き、追求し続ける大切さを学んだ」と、実り多き活動となったようだ。

9月1日号の「伊勢えがおプロジェクト」はマスクの着用が求められ、相手の表情や笑顔をはっきりと見ることができない閉塞感の中、「笑顔を見ると自然と自分も笑顔になれる」との考えから、生まれた企画。玉津由梨さん(コミ4)は自らモデルとなり、また、ビデオ通話で報道機関に率先してアピールするなど同プロジェクトの広報・宣伝も積極的に推し進めた。「皆さんからの応募写真がどれも素敵で元氣

をもらった。『川柳づくりが笑顔の秘訣』とのコメントがあり、家での過ごし方のヒントになった」と玉津さん。メンバーの知恵と工夫と想いが詰まった広報紙は伊勢市のホームページからダウンロードが可能だ。



河野亜美^(国文4)さんが
ビブリオバトル普及委員会理事に就任

河野亜美さん(国文4)がビブリオバトル普及委員会の理事に就任した。現役の大学生が理事を務めるのは同委員会発足以来、初。全国的な組織ということもあり、関係者の間で話題になっている。



ビブリオバトルとはお薦めする本の魅力を紹介し合い、「チャンプ本」(最も読みたいと思った本)を聴衆の投票で決める知的書評合戦。その魅力について「本を知ると同時に相手を知ることができる、コミュニティ形成機能」と語る河野さん。平成19年に考案されて以降、急速に広まりつつあるものの「学校で開催したいがどうすれば人が集まるのか」「継続するコツは」といった声と同委員会に寄せられることも多く、河野さんは高校時代から今現在もバトラーとして活動する自身の経験を生かし、学生と大人を結ぶ橋渡しとなれるよう取り組みたいと抱負を語る。6月20日付で理事に承認され、さっそくこの9月には同委員会の代表を務める本学国文学科の岡野裕行准教授との共著論文「三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと」(『図書館界』第72巻3号)が発表される。「読書を通して新たな思考と出会い、ビブリオバトルに参加することで人前でも過度に緊張することがなくなった」と河野さん。学生理事としてどんな活躍を見せてくれるのか、楽しみだ。

コロナ禍で疲れた方に、河野さんからのおすすめ本
望月昭秀 著 縄文人に相談だ

フリーペーパー「縄文ZINE」の編集長である著者・望月昭秀氏が現代人の悩みを縄文時代的な思想で解決していく。「整理整頓ができない」と悩む人に、「それって旧石器時代のスタイルですね」と返す痛快なセンスがコロナ禍で疲れ切った精神に笑いとゆとりをもたらしてくれる。キャッチコピーは「悩みなんで全部まとめて貝塚にポイ」。



火事を早期発見
鳥羽市消防本部から**中村 優**^(神道4)さんに感謝状

火事を早期発見し被害の拡大を防いだとして中村優さん(神道4)に鳥羽市消防本部から感謝状が贈られた。

中村さんは3月23日午後11時頃、鳥羽市内の自宅にいた際、近隣民家の風呂場付近から火の手が上がっていることに気が付き、両親と急行。住人や周辺の家に火災発生を知らせて周り、消火栓をすぐホースに繋げられるよう準備して消防車の到着を待ち、被害の軽減に貢献した。「初めて見る大きな炎を前に恐怖を覚えたが、幼い頃、地域の子ども会活動で火災への対応を学んでいたため冷静に行動できた」と中村さん。今回の火災では近所の方が初期消火を試みるなど地域住民の協力が消火に結びついたといい、「日頃の周辺住民の方々との関わりをこれまで以上に大事にして、『火災はいつどこで発生してもおかしくない』との認識を今一度しっかり持っておきたい」と話した。また、将来神職として奉職した際には今回学んだ〈人々との関わり〉を大切にしていきたいとも語る中村さん。得難い経験となったようだ。

